

栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・教職員と地域は学校教育目標を十分に理解しており、高い共有意識が保たれている。一方で、児童の目標への主体的な取組はやや低く、無気力・無関心な児童が否定的評価に表れていると感じる。保護者についても理解は概ね良好だが、十分に伝わっていない層もあり、周知方法の工夫が必要である。全体として、目標の共有は進んでいるものの、児童の主体性向上と保護者への情報発信の充実が今後の改善点である。</p>
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。		<p>課題解決への方策</p> <p>・児童には分かりやすい目標設定と定期的な振り返りを行い、主体的な取組を促す。保護者には学校教育目標を簡潔にまとめた資料配布や行事での説明を行い、理解を深める。教職員は授業改善と目標の関連を共有し、地域とは連携活動をさらに拡充して目標達成を支える体制を強化する。</p>
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・校長は、教職員の意見を求め、集約して教育目標や教育方針を確定し、合意形成、意思統一を図り、情報共有の上、目標達成に努めている。 ①そう思うと②だいたいそう思うの割合の合計であれば、保護者、地域とも高い数値であるが、保護者の①の割合が26%なのが気になります。学校教育の根幹をなすものであり、さらなる周知の工夫が必要だと思えます。 ・学校全体で教育目標を共有し、子供たちの成長を支えようとする取組が見られるのはいいと思う。</p>
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。		

栄	小学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。		評価結果についての分析・課題 ・児童は学級生活を楽しいと感じ、保護者・地域からも学級経営が高く評価されている。一方で、教職員の自己評価がやや低く、児童のよさを十分に引き出せていないと感じる面がある。今後は、児童の活躍の場づくりや個に応じた関わりを強化し、教職員が学級づくりを協力して進められる体制づくりが課題である。
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。		課題解決への方策 ・児童のよさを引き出すため、授業や学級活動で役割や発表の機会を増やし、成功体験を積ませる。また、教職員同士で学級経営の工夫を共有し、困りごとを相談しやすい体制をつくることで、指導力の向上と学級の安定を図る。保護者や地域とも連携し、児童が認められる場面を広げていくことが効果的である。
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。		学校関係者評価委員会による評価 ・世界中に自慢できる栄小を目指し、児童一人一人の思いや願いがかなう笑顔あふれる学校作り、自ら考え進んで学習する教育を行っている。 ・児童、保護者、地域の肯定的な評価の割合がおおよそ同じなのは、客観的にそう感じているのであらうと思われます。先生方の①評価が低いのは、自己評価が厳しいためでしょうか。児童の①と②の合計が約90%なのは素晴らしいと思います。残りの10%の児童を救う手立てをよろしくお願いします。 ・児童、保護者、地域からの評価は高く、児童のよさを生かした学級経営が行われていると評価できる。 ・今後は教職員の自己評価がやや控えめであることから教職員同士などで取組の成果を互いに認め合い、共有していくことができたらよいのではと思う。
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。		

栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7年度の学校課題研究の中で「聴く」がテーマであったが、教職員が授業において常に「聴く」を意識した展開を行ったことで肯定的な評価が高くなったと考える。 ・児童の主体性も少しずつではあるが、向上してきており、授業内でも活発な意見交換が行われている様子が見える。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業構成の中で「聴く活動」を必ず位置付ける。 ・グループ活動の際、聴き合いのルールを共通化する。 ・校内研修で「聴く」をテーマにした授業改善サイクルを継続する。 ・授業で「聴く場面」の質を観点化し、教職員同士で具体的な改善点を共有する。 ・成果と課題を学年で蓄積し、学校で共通する指導スタイルを構築する。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット活用、グループ討議などにより、分かる楽しい授業を行い自分で考え積極的に意見を発信する力をつける教育をしている。 ・①と②の肯定的な意見は、4者とも8割を超えていて学習が主体的で活発に行われている証だと感じます。 ・「聴く」を重視した学習指導が定着し、子供たちもグループ活動の中で話す立場、聴く立場どちらも体験することで今回の評価につながったと思う。今後も授業改善を継続し学びの充実につなげていくことを期待したい。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。		

栄	小学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・教職員の肯定的意見が82%であったことから、本年度取り組んだ「聴く」を重視した授業改善やICT活用が、児童にとってわかりやすく効果的であったことがうかがえる。一方で、約2割の児童には依然として課題が残っており、個別支援や学びへの参加を促す工夫が今後の改善点として求められる。</p>
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。		<p>課題解決への方策</p> <p>・ICT機器の操作に不安を抱える児童への支援を充実させ、段階的な指導によって全児童が学習に参加しやすい環境を整えていく必要がある。さらに、学習理解の差に応じた個別最適な支援を行い、一人ひとりが安心して意見を表すことができる学習環境を保障していくことが重要である。</p>
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・端末を使って、皆が参加する授業を行っている。皆に発表の機会が与えられている。 ・ICT教育に関する評価では、4者とも肯定的な意見が多いですが、ICTを使った授業はもろ刃の刀であることを忘れずに活用をお願いしたいです。バーチャルな体験も有効ですが、五感を使った学習は何事にも代えがたい学びにつながります。 ・保護者、地域からの評価は高く、ICTの日常使いが定着していると思う。 ・ICT活用に消極的な児童への配慮が今後の課題となると思う。</p>
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。		

栄	小学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や体育的行事、運動機会の確保に関する取組について、肯定的意見は87%と高く、授業改善や行事の充実が一定の成果を上げていることがうかがえる。一方で、授業内容の難易度や運動量の個人差、参加しやすさなどに課題が残されている。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などでのいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は体育関係の取組を高く評価しており(87%)、成果を実感している。一方、児童の評価は79%とやや低く、児童自身の「運動への意欲」や「活動量の個人差」「休み時間の運動環境」など、児童の目線の課題が残されていることがうかがえる。この差は、学校側の取組が十分であっても、児童が実際に運動に参加しやすい環境や動機づけがまだ改善の余地を残していることを示している。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間には外に出てたくさん遊ぶよう促してほしい。 ・先生方の自己評価は低いのは高みを目指す向上心の現れでしょう。数値を見れば、子ども達は意欲を持って取り組んでいると思います。ただ、最近の子ども達を見ていると目標を立てても、低いレベルで満足してしまう傾向が見られます。より高位の目標に向かって取り組む姿勢を育ててください。 ・今後も体力の低下が懸念される。放課後も外で遊ぶ姿を見かけなくなった。 ・体育行事等の充実は高く評価できるが、児童の運動意欲や活動量には個人差が見られる。学校側の分析にあるように休み時間の環境整備や声掛けなどすべての児童が運動に親しめる工夫を継続していけたらよいと思う。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。		

栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>23% 77% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>児童の生徒指導上の課題に対し、教職員が組織的に取り組み、家庭と連携して対応している点について、肯定的意見は100%と非常に高い評価であった。これは、教職員間の情報共有、校内委員会の機能、家庭との連絡体制などが十分に機能し、組織として一貫した対応が行われているからと考える。また、教職員が生徒指導に対する共通理解を持ち、児童の状況に応じて適切に支援できていることが評価されたと考えられる。</p>
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>35% 37% 18% 10% 0%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>・昨年度と比べると保護者の肯定的意見が10P上がった。教職員の高い評価と保護者の信頼に支えられつつ、児童の相談しやすい環境を作ることや安心感を高めることが、今後の最重要課題である。保護者・三者の連携をさらに深め、情報共有・心理的安心感・個別支援の充実を図ることで、いじめ・トラブルの未然防止と早期解決につなげていく。</p>
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>39% 53% 7% 1% 0%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・土曜公開日、授業参観、保護者面談などにより、家庭等と連携・協力をしている。 ・先生方の努力と苦労はよく分かります。本当にお疲れ様です。子ども達の否定的な意見が3割程度あるのは残念ですが、子ども達のメンタルは、昔ほど強くないのは周知のとおりです。子ども達が楽しく過ごせる学校作りをよろしくお願いいたします。 ・前回より10ポイント上昇したという結果はとても良いと思う。ただ、児童の3割が「そう思わない」側の回答をしている点と見比べると当事者である児童と教職員とではまだ考えに開きがあると思う。先生方の頑張りがもっと子供たちに届けられるよう今後期待したい。</p>
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>64% 18% 0% 18%</p>	

栄	小学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・教職員が児童理解に努めながら、児童の良さを引き出す指導を行っていることが保護者からも評価され、学校全体として取り組みが機能していることがうかがえる。また、児童自身も主体的な成長が進んでいるといえる。 しかし、児童自身が成長を実感できていない層が一定数いることも明らかである。児童の内面的な部分に課題が潜んでいる可能性が高い。</p>
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。		<p>課題解決への方策</p> <p>・学校では、児童のよさや成長を認める関わりを大切に、悩みを相談しやすい環境づくりを進めている。また、家庭と連携して支援内容を共有し、友達との関わりを支える活動を充実させるとともに、一人一人の状況に応じた個別の支援を行い、児童の可能性の伸長を図っていく。</p>
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・校長をはじめ教職員が研究を重ね、児童のよさを引き出すように努めている。 ・日本の子ども達は、自己肯定力が低いとか、将来に希望を持つ子が少ないとか言われますが、本来、大人になることは嬉しいはずなのです。自分の良さに気づき、未来に希望を持てる教育をお願いします。 ・児童自身の肯定回答は約85%であり、今日諸君側や保護者側の評価と比べるとわずかに差がある。自分自身の成長を実感できていない子供が一定数いる点は今後の継続的な課題となると思う。</p>
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。		

栄	小学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別 支援 教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。		評価結果についての分析・課題 ・教職員は指導の工夫や家庭との連携に努めており、保護者からも高い評価を得ていることから、学校として個別支援の体制が一定程度機能していることがうかがえる。一方で、児童の肯定的意見は69%と低く、児童自身が“相談しやすい”“支援されている”という実感を持っていない層が多いことが課題である。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。		課題解決への方策 ・学校では、児童が悩みを相談しやすい環境づくりを進めるとともに、個に応じた支援の意図や工夫を児童に分かりやすく伝えて支援の“見える化”を図る。また、家庭との連携をこれまで以上に密にし、児童の特性理解に基づく個別支援を教職員間や専門機関と協力しながら継続して行うことで、一人一人の困り感に寄り添った支援体制を強化していく。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。		学校関係者評価委員会による評価 ・先生、指導方法を工夫し、家庭と連携協力し、保護者面談等を通して個々の特性に応じた指導を行っている。 ・特別支援教育は通常の教育にも通じる教育の根幹があります。究極の「個に応じた教育」です。全体的に①の評価が他の項目より若干低めですが、通常学級の先生方も定期的に特別支援学級の参観や指導に入るのも有効だと思います。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。		

栄	小学校	評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない・無答
---	-----	--

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は地域との協働の重要性を高く理解しているが、保護者の理解度はやや低く、学校の取組や地域連携の成果が十分に伝わっていないことが示唆される。また、保護者が参加しやすい仕組みや、地域との連携の様子を分かりやすく示す工夫が必要である。
	児童	/		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では、保護者に学校運営協議会や学校応援団の活動内容や意義を分かりやすく伝え、参加しやすい仕組みを整えるとともに、地域との連携の様子を見える化することで、学校・家庭・地域が一体となった協働体制をさらに強化していく。
	保護者	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる地域連携が必要。(自治会、支え合い、学校PTA、学校応援団、民生委員・児童委員) ・学校だよりや自治会回覧等により情報発信を行っている。 ・先生方の①の項目の数値が低いのは、地域連携の重要性は理解していても実際に何ができるのか、できているのか分からないというのが理由ではないでしょうか。 ・地域の方のご協力頂くだけでなく、地域の方が何を学校に求めているかに対して学校の教職員がどんなことをできるのか先生方で話し合う場があると良いのではないのでしょうか。 ・保護者の方への認知度や理解度が思っていたよりも高いと思った。 ・子供たちの成長を見守っている人たちが沢山いることを「見える化」することはとてもよいことと思う。
	地域	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		

栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>・働き方改革の目的や業務改善への取り組み、心身の健康を保ちながら教育活動に充てる時間の確保について、教職員の肯定的意見は59%と低く、教職員の多くが十分に実感できていないことが示される。これは、業務負担や業務改善の進み具合、時間的余裕に課題があると考えられる。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>・教職員が働き方改革の趣旨を理解し、業務改善の効果を実感できるよう、業務の優先順位や効率化を進めるとともに、教科指導や教育相談に充てる時間を確保する工夫を行う。教職員が安心して教育活動に取り組める環境を整備していく。</p>
	保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・体が資本。心身の健康なくしては教育の成果は上がらない。自ら工夫して無駄を省き、健康を維持して仕事に臨む必要がある。 ・リモートワークなどいろいろな働き方ができる世の中になり、ライフワークバランスも重要視されるようになりました。先生方の働き方も昔とはだいぶ変わってきました。教員の本来の仕事以外に生徒指導や説明責任などの仕事の増加で相変わらず先生方はお忙しいと思います。残さなくてもよいもの、残さなくてはいけないものを見極め、教育活動にあたってください。 ・教職員の仕事の量はすべては分からないが負担を感じている方が多くいるというのがよくわかる結果だと思う。先生でなくてはならない以外の仕事を少しでも減らしてPTAやボランティアを上手く利用していけたらと思う。</p>
	地域			